

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 24日は、冬型の気圧配置が続くが、高気圧が黄海へ進み西日本付近から冬型の気圧配置が次第に緩む。
- 25日は、高気圧が日本の南を移動し、沿海州付近に低気圧が進む。
- 26日は、低気圧がオホーツク海付近に進み低気圧からのびる寒冷前線が本州付近を通過し、次第に冬型の気圧配置に変わる。
- 27日から28日にかけて、冬型の気圧配置が続く。

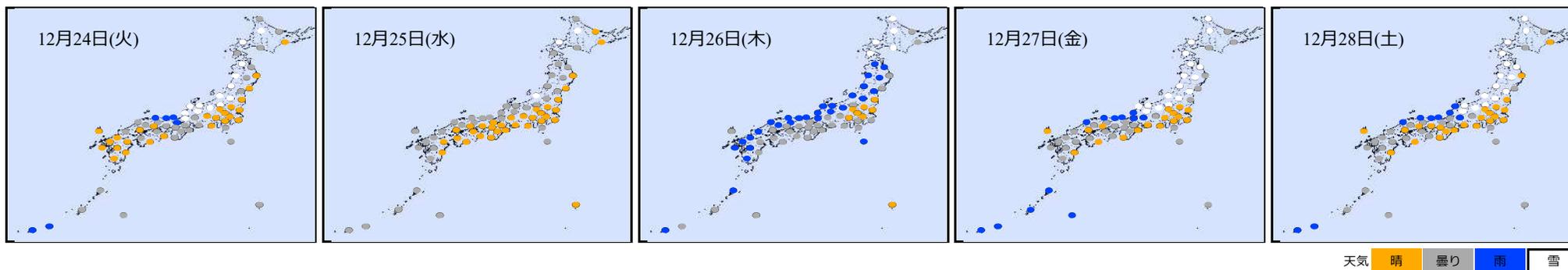
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

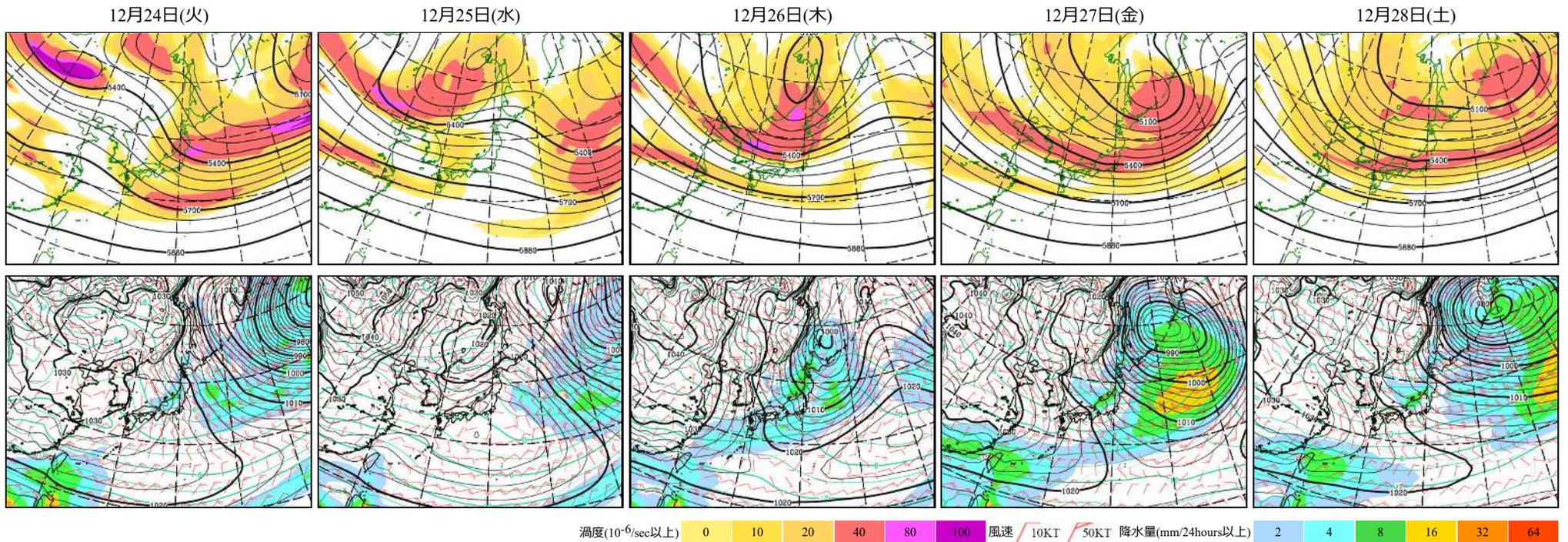
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

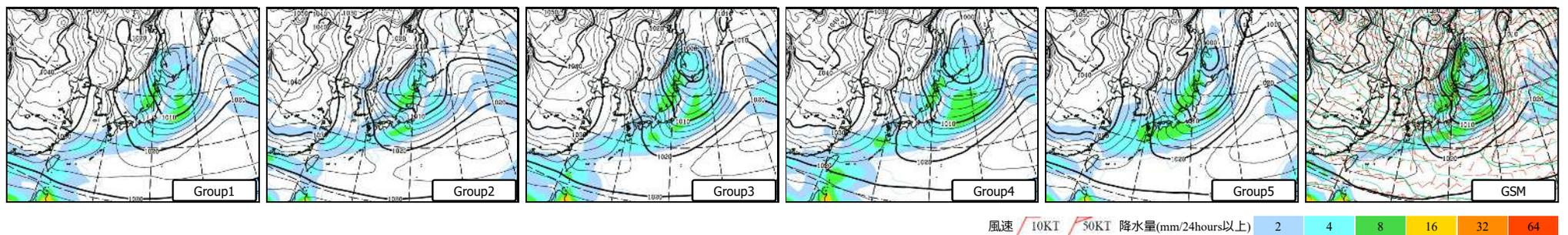


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る所が多い。
- 東日本太平洋側は、晴れまたは曇りとなる。
- 西日本太平洋側は、晴れまたは曇りとなるが26日は雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆12月26日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料 (ENS) は、25日から26日にかけて沿海州付近からオホーツク海へ進む低気圧や低気圧からのびる前線または気圧の谷が明瞭となった。27日は千島近海で低気圧が発達し、大陸からの高気圧の張り出しが強まったため、日本付近の冬型の気圧配置が北日本を中心に強まった。
- スプレッドは、比較的小さく特定高度線のばらつきも比較的小さい。
- ガイドンスの昨日資料からの変化も比較的小さいが、27日は日本海側を中心に降水確率が高くなった所が多い。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。